

馬に恋した少女の話。

40 minutes



UN FILM DE G A S P A R N O É

CARNE

AVEC PHILIPPE NAHON • BLANDINE LENOIR



ATTENTION!
CE FILM CONTIENT DES IMAGES
QUI RISQUENT DE HEURTER LA SENSIBILITE
DE CERTAINS SPECTATEURS.
注意! 感受性を傷つける危険な部分があります。

UN CONTE MODERNE, CRU ET
CRUEL, TENDRE AUSSI, QUI
RESTE GRAVÉ DANS LA
MÉMOIRE. *Agnès b.*

PRODUIT ET MONTE PAR LUCILE HADZIHAILOVIC
LUMIERE DE  DOMINIQUE COLIN
FESTIVAL DE CANNES 1991 - PRIX DE LA SEMAINE DE LA CRITIQUE - MENTION DU PRIX DE LA JEUNESSE

THE WORD "RIVETING" BEST
DESCRIBES THIS COMPLETE
AND ULTIMATELY SATISFYING
CINEMATIC EXPERIENCE.

カルネ

1991年カンヌ映画祭 国際批評家週間賞受賞
1991年仏・ジョルジュ・サドゥール賞受賞

CARNE

フランス映画／カラー／1991年／40分
配給：ヘラルド・エース、日本ヘラルド映画

■40分の衝動。『カルネ』登場。

1992～93年、パリを中心に、フランス全土の若者を熱狂させたという『カルネ』が日本に上陸する。

たった40分という作品にもかかわらず、その衝撃性、過激さで人々を驚愕させた。

そして、芸術作品への傾倒を深める最近のフランス映画の流れに飽き飽きしていた若者たちを挑発し、ナイト・ムーヴィーとしてロングランされた。

■「ジョルジュ・フランジュの『獣の血』(’48)以来の衝撃」

そんな批評を筆頭に、「4時間の『美しい諷刺女』か、40分の『カルネ』か」、「絶頂期のゴダールをさらに過激にした作品」と絶賛を浴び、カンヌ映画祭を初め数々の賞を受賞。忘れられつつあったフランス映画独特の過激な滑稽さ(冗談の好きな国民性)が、思う存分発揮された作品となっている。



■ビザール・アート=世紀末感覚に陶酔

30歳の新鋭ギャスパー・ノエは、直感にも似た特異な感性を揮る。最初に浮かんだイメージは「食肉処理場から出てくる子供たち」。さらに「CARNE(=肉、馬、肉体、ふしだらな女、質の悪い馬肉…)」という言葉から連想される様々なヴィジョンを出現させ、世紀末感覚を漂わせた“ビザール・アート”として観客を陶酔の境地に誘う。

■終わりのないパリの裏側、人は一体どこへ行くのだろうか

禁止されねばならないタブーが氾濫する現代パリの裏側が映し出され、恐ろしいほどの終末論を語る。

馬の肉を売る父親と、口をきかない13歳の少女のやるせない道行きの物語は、極限における緊張感と同時に、メランコリックな痛みを感じさせる。

そう、これは、ありきたりなイメージが連続し、どれも似たような物語しか持たない“映画”に慣れ切ってしまった、不感症気味の全ての映画観客に贈られたフランス映画なのである。

■これは馬に恋した少女の話

少女は生まれてから一度も口をきいたことがない。父親はパリ郊外で馬の肉を売る男。やがて女らしい変化をみせる13歳の少女…。

速報 ファッション・デザイナーアニエス・ベロが『カルネ』の続編を現在プロデュース中!

これが私の求めていた映画だって思ったわ。力強くて詩的で、肉塊の様に生々しくて冷たいのだけど、同時にやさしさもあって…。とにかく自分の感性にとても近い作品だった。 — *agnès b.*



●いよいよ「カルネ」日本公開、その興奮。

ギャスパー・ノエの「カルネ」を20世紀真剣短編映画と呼ぼう。短くても見る奴等をグサリとやる真つ赤な真剣短編映画だ。

あがた森魚(ミュージシャン)

人生に負け続けてゆく男の姿を、切り詰めた構成でリアルにかつ幻想的で斬新な映像に凝縮した非常にカッコイイ快作。

「戦争と平和」で、ロシアに出兵した仏ナポレオン軍が、自ら乗ってきた馬を喰いながら敗走していった話が想い起こされる。

大友克洋(漫画家)

複数の絶望的な肉塊の映像。馬肉/思春期の腫れた少女の体/脂肪の塊のような中年女。私達もまた肉屋に並ぶ肉の塊である。

やあねえ。

岡崎京子(漫画家)

人間の真理の縮図を垣間見るようだ。ショッキングで挑発的な映像の中になぜか切ない痛みが見える。この詩的緊張感にギャスパー・ノエ監督の才能がうかがえる。

城ノ内ミサ(音楽家)

なんなんだ一体! スメットした変態映画なのに、なんともいえないさわやかさがある…こんな映画ははじめてだ!

しかもシネスコだ! 40分だ!

竹中直人(俳優・映画監督)

『カルネ』のオープニング・シーンのもつ凄さ。それは『アンダルシアの犬』でフェリエルが目をつけたシーン以来の衝撃だ。ギャスパーは注目すべき監督であり、将来性と同時にアーティスティック・ビジョンの素晴しさがある。

デニス・ホッパー(俳優・監督)

『CARNE』を観たことによって、僕は生涯、ギャスパー・ノエ監督を追い続けることになるだろう。

豊川悦司(俳優)



今最も日本で公開すべきフランス映画だわ。パリの夜、私たちのような若い観客は『カルネ』に釘付けにされた。あまりに話題になったこの作品の続編が今創られているわ。この映画に魅了され、惚れ込んだ一人のアニエス・ベロが是非参加させてくれと監督に電話したの。彼女のプロデュースで撮影中よ。

— ロマーヌ・ポランジェ

1920年代末に『アンダルシアの犬』を撮った若かりしフェリエル・フェリエルのように、90年代の明けた今日、ギャスパー・ノエはあらゆる基準・礼儀作法をひっくり返し、「ハイパー・シュールリアリズム」を創り出した。

さあ、駆け出そう/あなたの皿に馬肉をのせないために/ — STUDIO(’92, Jul.)

ゴダールの感覚は、かっこいいフランスを描き出し、憧れだった。『カルネ』は、それに近い感覚を使いながら、より刺激的に、より官能的にフランスの見せたくない部分を見せる。なにしろ、不思議で生々しいフランスが映し出され、対極ではあるが、ゴダールが登場した時の鮮烈さを思い出した。

中野裕通(ファッション・デザイナー)

この映画は40分の短編だが、人間の冷酷さ悪さが生々しく僕の心に強く伝わってきた。見ているうちに、その短い時間の中に人間のすべての世界が映し出されてしまっているような気がしてきた。

袴田吉彦(俳優)

40分という短いフィルムだけど、僕が気に入ったのは、高いテンションを最後まで持ち続けているところだ。監督のもつオリジナルなリズムがある。この父と娘の、精神的に閉鎖された世界には、本来人間が持っている原始的な本能の姿を感じる。僕にもこの映画の少女と同じ位の娘がいる。僕と娘との関係は、この映画と違うが、本能的なところは似ている。

侯孝賢(ホウ・シャオシェン、監督)

ダーティなことをやっつけても、芸術映画だね。

丸尾末広(漫画家)

私はすごく好きだけど、生理的にダメっていう人もいるでしょうね。近親相姦めいた激んだ空気感を出すために、娘を口がきけない設定にするところなど、隅々まで計算された映画だと思います。私が好きなのは、ケン・ラッセル、グリーンハウエイ、デレク・ジャーマン、ウォーホルなどの映画ですが、それらに通じるものがあるフランス映画です。

森園みるく(漫画家)

わたしたちが必死になってかくし通そうとする“残忍”を、これは徹底的に暴露する。山口椿(作家・画家・チェリスト)50音順・敬称略

驚異的大ヒット!

BIZARRE CINEMA NIGHT-CLUB

ロングラン上映中 R指定版

揃 員 御 礼

六本木・俳優座劇場内
俳優座シネマテン 01 (3401) 4073

下記の日以外は夜 9時45分より 1回上映			
9/11日、18日、10/16日、23日	6:00	7:30	
9/15祝、23祝、10/15土、22土、28金	6:00	7:30	9:45

●9/11日、18日、10/16日、23日を除く日曜は休映